

1. 九州国立博物館ボランティアとは

1 九州国立博物館ボランティアとは

九州国立博物館（以下「九博」という）は、ボランティア制度の導入の目的に「来館者サービスの充実を図るとともに、生涯学習の推進及び博物館活動を支援する」「ボランティアの活動を通して、新たな視点での館の事業の改善や創出を目指し、館の活性化を推進し、社会教育施設としての博物館に対する期待に応える」を挙げています。

また九博における“ボランティア”とは「自らの自由意志に基づき、九博のパートナー（協同者）として、博物館活動の支援推進のために知識・技能を無償で提供される方」「館の業務を補う「無償の労働力」ではなく、来館者サービスの充実を目的に自己実現ができる方」と定義しています。

つまり博物館を訪れる一人でも多くの方に博物館を満足し、楽しんでいただく活動を通して、ボランティア一人一人の自己実現に博物館として協力していくことはもちろんのことですが、地域市民であるボランティアが博物館内で活動することを通して、市民の視線での新たな博物館活動が創造され、活性化される。博物館と市民、博物館と地域が一緒になって博物館を盛り上げていく、博物館を創っていくことを目指しています。

九博のボランティアは、平成17年の発足当時、842人の応募があり、293名をボランティアとして登録し、5分野9部会（展示解説・教育普及・館内案内（日本語・英語・中国語・韓国語）・環境・イベント・学生）で活動を開始しました。また地域の手話グループと連携し聴覚障がい者へのサポート活動も開始しました。その後、九博内でのボランティア活動の拡大や300名を越える大組織のスムーズな活動を支援するために、平成20年の第2期ボランティア募集時より資料整理・サポートの2グループを創設し、現在9分野12部会（手話部会を含む）で活動を始めました。

平成23年3月で登録を継続していた1期のボランティアが任期を満了するため、新規の第3期ボランティアの募集を行い、233名のボランティアを新たに登録することになりました。そして、平成23年4月より登録を継続する第2期ボランティアに、新規の第3期ボランティアを加え、378名で九博ボランティア活動に取り組むことになり、現在に至ります。

〔ボランティア数〕

	総数	第2期	第3期
展示解説部会	75名	31名	44名
教育普及部会	39名	18名	21名
館内案内日本語部会	26名	14名	12名
館内案内英語部会	26名	11名	15名
館内案内中国語部会	6名	1名	5名
館内案内韓国語部会	31名	14名	17名
環境部会	29名	8名	21名
イベント部会	6名	4名	2名
資料整理部会	19名	12名	7名
サポート部会	22名	8名	14名
学生部会	8名	3名	5名
手話部会	31名		

2 九州国立博物館ボランティアの運営

九博のボランティア活動においてはボランティアの主体的な活動の重視を基本としています。日常的な活動において、博物館の目標なり、九博の博物館活動という大きな“枠”はありますが、その“枠”内で、ボランティア自身で様々な活動や取り組みを考え、さらなる「来館者サービスの充実・向上」を目指しています。つまり、活動の大枠は博物館から提示しますが、具体的な活動内容はその部会で検討・協議をしながら決めていきます。また自分たちの活動に必要なと思われる研修等について、ボランティア自身で企画し、実施していくという形をとっています。「博物館がやってくれる」「博物館からの指示に従う」といった考えのボランティアには戸惑いも生まれますし、何より自分が思い描いていた活動以外のことに関わるが多くなります。しかし、活動や運営に自ら関わり、自らの意志や思いが活動に生かされることによって、活動だけでなくボランティア一人一人の主体性がより伸長され、それが九博ボランティアの活性化、モチベーションの向上につながり、ひいては「来館者サービスの充実・向上」につながっています。

運営において定例会と部会を実施します。定例会は、月1回（第3土、16:00～）、九博側からボランティア担当・ボランティアコーディネーター（2名）、各部会から2名が参加して実施します。主な内容は博物館からの連絡・報告のほか、博物館からの提案等に対して検討・協議を行います。しかし、この定例会で結論を出すのではなく、各部会で検討・協議し、次回の定例会に持ち寄り、結論を出すという手順を基本としています。時間はかかりますが、ボランティア一人一人の思いや意見ができるだけ全体の運営等に反映できるようにしています。また定例会後は、各部会に連絡・協議等を行う「部会」を開催し、全体での意志の統一や情報の共有を図るとともに、先述したように部会の運営や活動について協議等を行っています。